



# 双塔

カトリック新潟教会

2017年6月  
No. 349

## フィリピン人の宣教師として

協力司祭 ロレンゾ・ホセ ルイス

この前の5月3日に、私が日本に来てから26年になりました。今でも昨日のように、一人の先輩の神父様の質問を覚えています。日本へ出発するまえにあの神父様は私に「フィリピン人の宣教師として、日本の教会になにか提供することがありますか」と私に聞きました。そのときまでは司祭として、または神言修道会のメンバーとしていろんなことを考えたけど、フィリピン人としてのことはあまり考えていませんでした。しかし、確かに私たちの生まれた国、育てられた環境は私たちの信仰に大きな影響はあると思います。そして、国際化している社会と同じように、日本のカトリック教会もますます国際化することは間違いありません。

新潟教区の外国人司牧をしながら、その事実を経験しています。フィリピン人の共同体に関わっていることが多いですが、他の外国人たちとの出会いもあります。私は南魚沼市の浦佐にある国際大学(IUJ)で英語のミサをささげています。留学生たちのためですが、学外から来るフィリピン人たちもいます。ミサに来る留学生たちはアジア、アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、南米の出身です。今はアジアとアフリカからの参加者が多いです。学外から来るフィリピン人たちは技能実習生が多いです。国際大学のグループは確かに特別ですが、日本全国のほとんどの小教区には外国人たちも来ていると思います。これからは外国人司牧のことは司祭やシスターたちだけではなく、日本人の信者さんたちも大きな役割があると私は確信しています。

さて、「フィリピン人の宣教師として、なにか提供することがありますか」の答えとしては、この26年間にその答えを探していました。結局、きちんとした答えはいまだに見つかっていないような気がします。もしかしたら、私ではなく、みなさんからその答えを私に教えてくださることになっているかもしれません。ただ、私はいつも宣教師としてみなさんに言いたいことはつぎの通りです。「神様はあなたを愛しています。」 God Loves You!



## そよかせ便り

### ■ 英語ミサとロレンゾ神父様歓迎会 ---- 5月7日(日) 12:00 ----

五月晴れの日曜日、正午から英語ミサがロレンゾ神父様の司式で行われた。ミサ曲は有志の皆さんが選曲された復活節限定の明るい曲調が中心で、ミサに来られた海外出身の信徒約50名の歌声が聖堂に響いた。ミサ後は会場をセンター1階の研究室に移しロレンゾ神父様の歓迎茶話会が開催された。また、5月生まれの信徒5名と、この日が誕生日のラウール神父様を囲んでのバースデーパーティーも一緒に行われた。今日の主役はロレンゾ神父様のはずが、いつのまにかラウール神父様が主役?に・・・

### ■ 「世界広報の日」 ---- 5月21日(日) 9:30 ----

復活節第6主日のこの日、ミサ前には、聖母月ということで、ルルド前でロザリオの祈りがさげられた。

9時半のミサはラウール神父様に代わって教区事務局長・大瀧神父様の司式。ミサの冒頭、この日が「世界広報の日」であることを紹介された。偶然にも、ミサ後は広報部会の定例会の開催日であった。

#### 大瀧神父様の説教から

- \* 「広報」ということばは、一般的には PR (Public Relations) の訳語とされている。情報の発信、宣伝という意味で、PRという言葉自体がすでに日本語になっている。
- \* 本日は「世界広報の日」。ここでいう「広報」には Social Communication ということばが充てられている。社会的なコミュニケーション、すなわち「分かち合い」である。
- \* 「かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしがあなたがたの内におることが、あなたがたにわかる」(ヨハネ 14・20)。私たちは「分かち合い」はどれも苦手だが、神こそ、分かち合いの「達人」なのである。聖霊を受け、私たちがコミュニケーションの達人になる。世界広報の日は、神様の命を分かち合うための奉仕で、PRするわけではない。

## あゆみ

No.84 教会運営委員会

講座「知ってるつもり?! 典礼のしるし、ことば、動作」

指 導	主任司祭 ラウール神父
開催日時	2017年6月10日(土) 午前10時~11時
会 場	カトリックセンター研究室
講座内容	ミサの式次第に沿った内容が中心ですが、今回はラウール神父の「とっておきの」お話が聞けるかもしれません。

事前に準備するものではありません。どなたでもお気軽にご参加ください。

#### 【み心の月・6月に寄せて】

聖なる父よあなたは人類の罪のために刺し貫かれた御子のみ心のうちに、限りないいつくしみの泉を開いてくださいました。わたしたちが、心からの奉獻によってキリストの愛にこたえることができますように。

(イエスのみ心の祭日・ミサの集会祈願より)